

平成 23 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

学位の種類: 修士 (看護学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学系

学修番号: 08894606

氏名: 前山 さやか

(指導教員名: 志自岐 康子教授)

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A 4 版) に収めること

【目的】倫理的看護実践、及び質の高い看護を構築することを目的とし、臨床看護師の倫理的感受性には、どのような要因が関連しているかを明らかにする。

【方法】Lutzen が開発し、2006 年に改定された倫理的感受性を測定する尺度である Moral Sensitivity Questionnaire (MSQ) の日本語への翻訳を行い、日本語版 MSQ を作成し、東京都内の 15 の医療機関に所属する、臨床経験 2 年以上の看護師を対象に、自記式質問紙調査を実施した。尺度の信頼性と妥当性の検討、及び『日本語版 MSQ』と「個人属性」、「自尊感情」、「医師-看護師関係」、「環境特性(職場環境, 倫理に関する組織的取り組み)」との関連を分析した。分析には、Mann-Whitney の U 検定、Kruskal-Wallis 検定、Kendall の順位相関係数を用いた。また、関連がみられた要因について、カテゴリカル回帰分析を行った。

【結果】看護師 635 名に質問紙を配布し、返送された 392 名(61.7%)のうち、無効回答を除いた有効回答 344 名(54.2%)を分析対象とした。『日本語版 MSQ』の信頼性について、クロンバック α 係数は 0.79 であった。『日本語版 MSQ』で、最も高い得点を得た項目は、「私の仕事では、患者が必要とすることを感知する能力が常に役立つ」であり、最も得点が低かった項目は、「患者がよいケアを受けられていない時に、私はそのことを感知する非常によい能力をもっている」であった。『日本語版 MSQ』と有意な関連がみられたのは、自尊感情($p < 0.01$)、医師-看護師関係($p < 0.01$)、環境特性の職場環境($p < 0.01$)と倫理研修後の気持ちや行動($p < 0.01$)であった。また、有意な差がみられたのは、個人属性の 3 項目[年齢($p < 0.05$)、職位($p < 0.01$)、倫理綱領の知識($p < 0.01$)]、環境特性の倫理に関する組織的取り組みの 2 項目[専門看護師らへの相談($p < 0.05$)、倫理研修($p < 0.05$)]であった。カテゴリカル回帰分析では、『日本語版 MSQ』には、医師-看護師関係($p < 0.01$)の関連が最も強く、次いで、年齢($p < 0.05$)、自尊感情($p < 0.01$)、職場環境($p < 0.05$)で有意な関連が認められ、自由度調整済み R^2 は 0.30 であった。

【考察】本研究の結果から、臨床看護師の倫理的感受性には、医師-看護師関係が重要であること、また、自尊感情を高める働きかけや、教育などの職場環境を整えることの重要性が示唆された。